

1948d

July, 1948

昆蟲學研究雜誌

松蟲

Matsumushi

北海道大學農學部昆蟲學教室

セクダ・マツムラナ編輯

吉明 1
忠雅 11
登昭 11
三村 11

雄平 18
奥平 18
陸太 18
加藤 18

飯夫 21
平島 21

樹猛 25
茂樹 25
伯村 25

章 29
上遠 29

勝夫 29
加藤 29

10

20

24

28

17

MUS. COMP. ZOO.
LIBRARY
AUG -7 1951
HARVARD
UNIVERSITY



第 3 卷 第 2 號

札幌・東京

北 方 出 版 社

昭和 23 年 11 月

(1948)

Taxonomically:

- Inner Asiatic examples → *Chrysis* (*Tetrachrysis*) *chrysochlora* MOCSÁRY (1889)
 Korean examples → *Chrysis* (*Tetrachrysis*) *chrysochlora* MOCSÁRY, a subspecies
 Japanese examples → *Chrysis* (*Tetrachrysis*) *chrysochlora* MOCSÁRY, another subspecies.
 (20) *Chrysis* (*Tetrachrysis*) *sarakiensis* RADOSZKOVSKY (1891)
 According to the Internat. rules of Zool. Nom. the emendation to *seraxensis* BUYSSON seems to be unnecessary. This species was once reported from the Bonin Islands, but the determination of the example is very doubtful.
 (21) *Chrysis* (*Pentachrysis*) *dolichoceas* BISCHOFF (1910) → *Chrysis* (*Pentachrysis*) *lusca* FABRICIUS f. *soncinna* GRIBODO (1884).
 (22) *Chrysis* (*Pentachrysis*) *dolichoceas* SUGIHARA (1932) (nec BISCHOFF) → *Chrysis* (*Pentachrysis*) *shanghaiensis* SMITH ♂.
 (23) *Chrysis* (*Hexachrysis*) *netterstedti* DAHLBOM (1854) → *Chrysis* (*Hexachrysis*) *fasciata netterstedti* DAHLBOM (1854).
 (24) *Stilbum cyanurum amethystinum* FABRICIUS (1775) → *Stilbum cyanurum splendidum* FABRICIUS (1775), s. S. ZIMMERMANN (1937).

附記 *Chrysis* (*Tetrachrysis*) *galloisi* BUYSSON (1908) に就て
 従来日本で上記学名の下に知られてゐた青蜂 (所謂ツマアカヨツバセイボウ) は、本来の *galloisi* とは全然別の種類である。
galloisi BUYSSON は、原記載によれば、今まで *daphne* SMITH と誤稱されてゐたものと極めて近縁な四齒青蜂である。
 この兩者に就ては色々問題があるので、発表を後の機会に譲りたい思ふ。

蜂 蟻 燈

蜂 生 態 雜 録
常 木 勝 次

- (1) ルビ-セイボウ *Ellampus auratus* (L.) と ル
 ヲセイボウ *Ellampus punctatus* (UCHIDA) の
 寄主
 この兩種は共に、アリマキの寄主蜂 *Pemph-
 redon* (*Digeurus*) *unicolor* Pz. (nec FABR.) の巢に
 寄生する。幼蟲は Campodei-form ではないが、腹
 背第 5~7 節に顕著な瘤状突起をもち、寄主の幼
 蟲より黒ずんでゐる。孵化後、育房内を徘徊して
 寄主の幼蟲を求め之を食ふ。
 (2) フタモントグアナバチ *Oxybelus bipunctatus*
 OLIVIER の巢と獲物
 この種は本邦未記録であるが、札幌附近に稀
 ならず発見出来る。砂中に深さ 7~10 cm の急傾
 斜の坑道を掘り、終端部を緩傾斜にした後 1 育房
 を造る。獲物は Muscidae, Anthomyiidae 及び Syr-
 phidae の小形種で 1 巢 3~5 頭を収容する。歐洲
 では多くの観察記録がある。
 (3) ヌカダカバチ *Tachysphex japonicus* IWATA
 の巢

蓋谷善夫氏 (1935) によると、この種は汚褐色
 の巣を造ることになつてゐるが、それは氏が管瓶
 中で砂泥を奥へずに管満させた爲で、自然状態
 では、本種の巣は砂造りである。その砂を造る方
 法は、FABRE (1886) の *Tachite manidide* (= *Tachys-
 phex costai* GRIBODO), FERTON (1911) の *Tachysphex
 mantirator*, *T. fluctuatus* 等の方法と全く同様であ
 る。

- (4) *Crabro* (*Acanthocrabro*) *vagabundus* Pz. の
 異常獲物
 本誌 1 卷 1 號で本種の異常獲物として、筆者
 は假蟻科を記録したが、その後二つの巢に於て 1
 頭づつ、葉龍蟻科をその育房から発見することが
 出来たから、追記しておく。
 (5) *Crabro* (*Crossocerus*) *varius* LEP. et BRULLÉ
 の獲物
 大層山黒岳頂上に近い路上で、本種が多数造
 巢してゐるのを調査したが、獲物はアドリバへ科
 Empidae に属する數種であつた。

ウズ
 [Note
 筆者は 1946 年 5 月以
 ヲスベシロテフ *Parnassius*
 軍に報告することにした。

實驗所の裏山附近
 テフの出現するの
 年間の記録であるが、
 に左右されることは勿
 月 20 日であり、出現
 本種は卵の花に
 ゐるのを目撃し、且
 に伊東巖氏 (1941) に
 卵の花に飛來するこ
 の花に飛來した採集個
 雄ともに羽化直後の
 雌に於ては交尾後の
 つた。卵の花の生育
 生地と思はれる地域
 居り、發生地と思は
 してから、2 日後に
 ことから産卵のため

鳳蝶科 *Papilionida*
Luehdorfia japonica LEW
 は相應して次第に増
 に雄の出現數に比して
 筆者は 1946 年 5

- 1) 私の小観察、昆蟲界
 2) 越後のギフテフ (三)